

令和8年度病害虫発生予報第3号（7月予報）概要表

令和8年6月25日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）紋枯病		並
（3）縞葉枯病		並
（4）ヒメトビウンカ		並
（5）セジロウンカ		やや少
（6）ツマグロヨコバイ		並
（7）斑点米カメムシ類		並
（8）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	早	並
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>		
（1）いもち病（葉いもち）		並
（2）縞葉枯病		並
（3）ヒメトビウンカ		並
（4）セジロウンカ		やや少
（5）ツマグロヨコバイ		並
（6）フタオビコヤガ（イネアオムシ）（第3世代幼虫）	早	並
（7）イチモンジセセリ（イネツトムシ）（第2世代幼虫）	並	並
<u>3 大豆の播種前防除対策</u>		
（1）紫斑病		
<u>4 なし</u>		
（1）黒星病		並
（2）ハダニ類		多
（3）アブラムシ類		並
（4）果樹カメムシ類		並
（5）シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）		やや多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>5 なす（夏秋栽培）</u>		
（1）褐色腐敗病		並
（2）オオタバコガ		やや多
（3）ハダニ類		並
（4）アザミウマ類		やや多
<u>6 ねぎ（秋冬栽培）</u>		
（1）黒斑病		やや少
（2）軟腐病		並※
（3）シロイチモジヨトウ		多
（4）ネギアザミウマ		並
<u>7 いちご（苗）</u>		
（1）炭疽病		並
（2）ハダニ類		多
<u>8 茶</u>		
（1）炭疽病		並
（2）チャハマキ（第2世代幼虫）	早	並
（3）チャノコカクモンハマキ（第2世代幼虫）	並	やや少
（4）チャノホソガ（第2世代幼虫）		やや少
（5）チャノミドリヒメヨコバイ		やや少
（6）カンザワハダニ		やや少
（7）チャノキイロアザミウマ		並
（8）クワシロカイガラムシ（第2世代幼虫）	早	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並※： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 8 年度病虫害発生予報第 3 号（7 月予報）

令和 8 年 6 月 25 日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5 月中旬までの移植）（1/2）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6 月中旬の発生量：無 □5 月 1 日～6 月 24 日までの 感染好適日出現日数 3 日（平 年 23.6 日）：少（－） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並、日照時間は ほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂で軟弱な稲 体となり、発生を助長するため、適正な追 肥を実施する。 ・常発地または防除所発表の「いもち病（葉 いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照 3 ） を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場を よく見回り早期発見に努める。
紋枯病	並	○6 月中旬の発生量：無 □前年の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（＋）	・窒素肥料の過剰施用は、過繁茂となり発生 を助長するため、適正な追肥を実施する。
縞葉枯病	並	○6 月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □ヒメトビウンカ越冬世代幼 虫のイネ縞葉枯ウイルス保 毒虫率（ 参照 4 ）：やや少（－） □7 月のヒメトビウンカの予想 発生量：並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を 実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取 り処分する。
ヒメトビ ウンカ	並	○6 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・本虫は黒すじ萎縮病も媒介するため、適切 な防除を実施する。
セジロウンカ	やや少	○6 月中旬の発生量：無 □5 月 1 日～6 月 24 日までの 飛来予測日数 1 日（平年 3.3 日）：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（±）	・ほ場をよく見回り早期発見に努める。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 水稻（5月中旬までの移植）（2/2）

病害虫名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
ツマグロ ヨコバイ	発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：やや多 （+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ 平年並（±）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たない品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「えみほころ」など）では多発しやすいため、早期発見に努める。
斑点米 カメムシ類	発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ 平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・イネカメムシに対しては、出穂期～穂揃期（不稔対策）及び穂揃期の 8～14 日後（斑点米対策）に薬剤による防除を実施する。 ・水田内外の雑草で増殖するため、通年で雑草管理を実施する。 ・同一除草剤の連用による畦畔除草は、薬剤抵抗性オヒシバの発生を助長し、斑点米カメムシ類の生息地となるため注意する。 ・出穂期前後 2 週間の除草作業は、本田への侵入を助長するため、実施しない。
フタオビ コヤガ （イネアオムシ） （第 3 世代幼虫）	発生時期 早 発生量 並	○6月中旬の発生量：無 ■6月 24 日現在の有効積算温度による第 2 世代成虫の予測 発蛾最盛日 7 月 2 日（平年 7 月 9 日）：早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ 平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が 7 月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発生予測」を参考にし、第 3 世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に第 2 世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和 8 年 6 月 15 日まで）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam2026.html

参照 4：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和 8 年 1 月 16 日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20260116.html

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）（1/2）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	並	○6月中旬の発生量：無 □5月1日～6月24日までの 感染好適日出現日数3日（平 年23.6日）：少（－） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並、日照時間は ほぼ平年並（±）	・ほ場内の余り苗は感染源となるため、早め に撤去する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・常発地または防除所発表の「いもち病（葉 いもち）感染好適条件出現日数」（ 参照3 ） を確認し、好適日が続いた場合は、ほ場を よく見回り早期発見に努める。
縞葉枯病	並	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場（5月中旬移植） の発生量：並（±） □5月中旬までの移植地域の 発生量：並（±） □本作型の地域では抵抗性品 種の作付割合が高い（－） □7月のヒメトビウンカの予 想発生量：並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考にヒメトビウンカの防除対策を 実施する。 ・被害株は感染源となるため、早めに抜き取 り処分する。
ヒメトビ ウンカ	並	○6月中旬の発生量：－ □県予察ほ場（5月中旬移植） の発生量：並（±） □5月中旬までの移植地域の 発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
セジロウンカ	やや少	○6月中旬の発生量：－ □5月1日～6月24日までの 飛来予測日数1日（平年3.3 日）：やや少（－） □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（±）	・ほ場をよく見回り早期発見に努める。
ツマグロ ヨコバイ	並	○6月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水 量はほぼ平年並（±）	・ツマグロヨコバイに対して抵抗性を持たな い品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」、「え みほころ」など）では多発しやすいため、 早期発見に努める。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5 月下旬以降の移植）（2/2）

病害虫名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
フタオビ コヤガ (イネアオムシ) (第 3 世代幼虫)	発生時期 早 発生量 並	○6 月中旬の発生量：－ ■6 月 24 日現在の有効積算温度による第 2 世代成虫の予測発蛾最盛日 7 月 2 日（平年 7 月 9 日）：早（＋） □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が 7 月初旬に発表予定の「フタオビコヤガ（イネアオムシ）発育予測」を参考にして、第 3 世代幼虫の防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に第 2 世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
イチモンジ セセリ (イネツトムシ) (第 2 世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並	○6 月中旬の発生量：－ ■6 月 24 日現在の有効積算温度による第 2 世代幼虫の予測孵化最盛日 7 月 24 日（平年 7 月 23 日）：並（±） □県予察ほ場（5 月中旬移植）における第 1 世代幼虫の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所が 7 月初旬に発表予定の「イネツトムシ発育予測」を参考にして、第 2 世代幼虫の防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除を実施する（縞葉枯病はヒメトビウンカ対象）。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 3：いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和 8 年 6 月 15 日まで）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_blastam2026.html

3 大豆の播種前防除対策

病害虫名	防除上注意すべき事項
紫斑病	・本病害に対する抵抗性品種（「里のほほえみ」等）を栽培する。 ・健全な種子を選ぶとともに、昨年発生したほ場に播種する場合は、必ず薬剤で種子を消毒する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	並	○6月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・「幸水」の果実は感受性が高まる時期であるため、発生に注意する。
ハダニ類	多	○6月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。
アブラムシ類	並	○6月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
果樹 カメムシ類	並	○6月中旬の発生量：散見 □予察灯等による誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、発生動向に注意して防除を実施する。
シンクイ ムシ類 (ナシヒメ シンクイ)	やや多	○6月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる第1世代成虫の誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・令和8年度病虫害防除情報「ナシのナシヒメシンクイについて」(参照5)を参考に防除対策を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・交信攪乱剤（コンフューザーN等）はナシ園の周囲を含め広範囲で使用する事が効果的である。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照5：令和8年度病虫害防除情報「ナシのナシヒメシンクイについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20260625en.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
褐色腐敗病	並	○6月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・発病果実の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
オオタバコガ	やや多	○6月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・令和 8 年度病害虫防除情報「ナスのオオタバコガについて」(参照 6)を参考に防除対策を実施する。 ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2)を参考に幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ハダニ類	並	○6月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・高温期は増殖が早いため、こまめに発生状況を確認する。
アザミウマ類	やや多	○6月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 6：令和 8 年度病害虫防除情報「ナスのオオタバコガについて」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20260526en.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒斑病	やや少	○6 月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
軟腐病	並※	○6 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・多肥栽培では発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を設置し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジ ヨトウ	多	○6 月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギ アザミウマ	並	○6 月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・これから定植を行うものは、定植時の粒剤等により、初期防除を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並※：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・多※※：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多※※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（苗）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○6 月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。 ・胞子が飛散しないよう、チューブかん水など水滴の跳ね返りがない方法でかん水する。 ・被害株は見つけ次第、速やかに除去し、適切に処分する。
ハダニ類	多	○6 月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い（＋）	・高温期は増殖が早いいため、こまめに発生状況を確認する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶 (1/2)

病害虫名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	発生量 並	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：やや少 （－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ 平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」 （ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・「さやまかおり」「やぶきた」「こまかげ」 「ふくみどり」は発生しやすいため、一番茶 残葉の発病に特に注意する。
チャハマキ （第2世代幼虫）	発生時期 早 発生量 並	○6月中旬の発生量：やや少 ■予察灯の第1世代成虫初飛来 日は6月2日（平年6月9 日）：早（＋） □県予察灯への誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる 第1世代成虫の誘殺数：並 （±） □気象予報：気温は高い、降水量は ほぼ平年並（＋）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」 （ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査 データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象 として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に 注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノ コカクモン ハマキ （第2世代幼虫）	発生時期 並 発生量 やや少	○6月中旬の発生量：散見 ■予察灯の第1世代成虫初飛来 日は6月16日（平年6月16 日）：平年並（±） □県予察灯への誘殺数：少（－） □フェロモントラップによる 第1世代成虫の誘殺数：やや 少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は ほぼ平年並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査 データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象 として防除を実施する。 ・摘採により防除適期を逃した園では、特に 注意し発生状況に応じて防除を実施する。
チャノホソガ （第2世代幼虫）	発生量 やや少	○6月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の第1世代幼虫に よる被害芽率：少（－） □フェロモントラップによる 第1世代成虫の誘殺数：やや 少（－） □気象予報：気温は高い、降水量は ほぼ平年並（±）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査 データ」（ 参照2 ）を参考に若齢幼虫を対象 として防除を実施する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多**：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

8 茶 (2/2)

病虫害名	発生 予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量 やや少	○6 月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：少 （－） □気象予報：気温は高い、降 水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・周辺雑草で繁殖するため除草を励行する。
カンザワ ハダニ	発生量 やや少	○6 月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：やや 少（－） □気象予報：気温は高い、降 水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
チャノキイロ アザミウマ	発生量 並	○6 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並 （±） □気象予報：気温は高い、降 水量はほぼ平年並（±）	
クワシロ カイガラムシ （第 2 世代幼虫）	発生時期 早	■6 月 22 日現在、有効積算温 度（アメダスデータ青梅）に よる第 2 世代幼虫孵化最盛 日の予測は 7 月 15 日（平年 7 月 22 日）：早（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・防除適期は、孵化幼虫期を中心とした短期 間であるため、関係機関から出される最新 の防除時期予測に留意する。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県 of 過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

— 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ —

（令和 8 年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日）

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和8年6月25日発表)

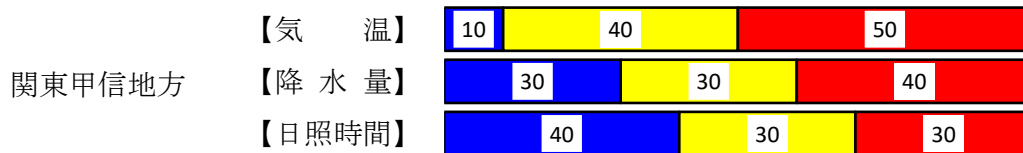
出典: 気象庁ホームページ

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=110000.html)

<予報のポイント>

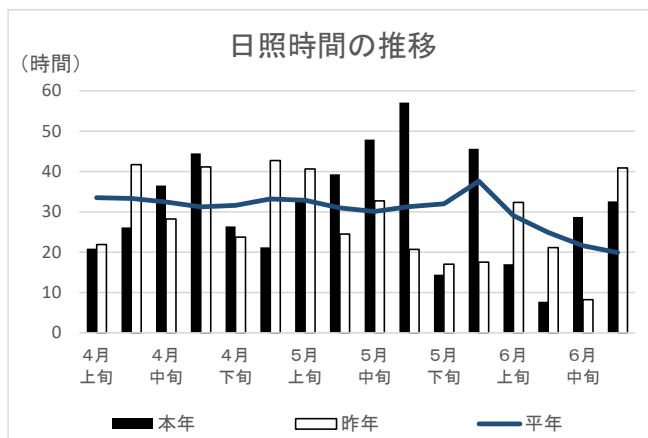
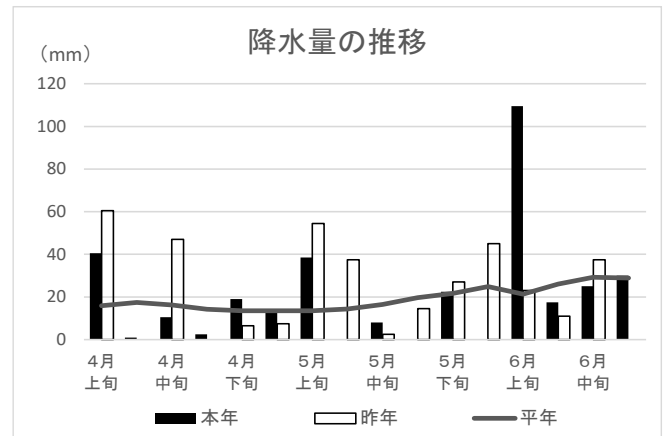
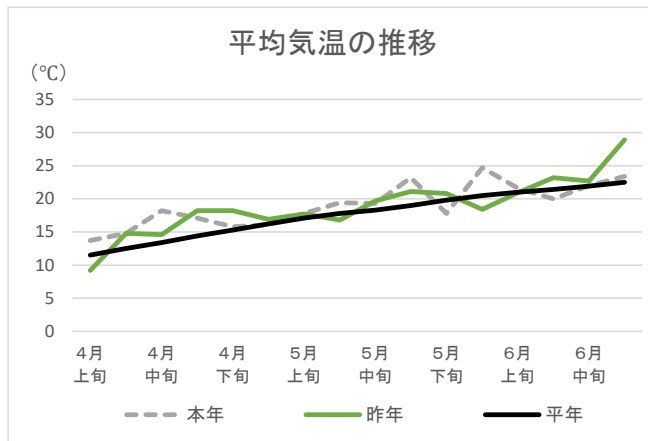
- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先

埼玉県病虫害防除所

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784

電話: 048-539-0661 FAX: 048-539-0663

E-mail: k3603114@pref.saitama.lg.jp

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>